

# 日本の水なし印刷をリード 「心をつなぐ印刷物」を 地球にやさしい技術で提供

文星閣

うめナビ vol.4-9

大田区に本社・工場を構える文星閣(大田区久が原、奥継雄社長、03・3754・8370)は、大正元年に新宿で出版会社として設立。第二次世界大戦で工場や機械が焼失したが、昭和23年に大田区北千束で新たなスタートを切り、着々と事業を拡大してきた。

同社の一番の特徴は、有害な廃液を一切出さずに、現像処理後の排水を下水に流せる、環境にやさしい「水なし印刷」という印刷方法。この「水なし印刷」を業界の先陣を切って1985年から導入し、以来20年超に亘り業界をリードしてきた。2001年にはアメリカに本部を置く水なし印刷協会「WPA」にいち早く加盟、さらなる技術の向上を図っている。

同社は、2002年に環境方針を策定し環境保全に取組んでいるが、その後も、「水なし印刷」に加えて再生紙、非木材紙、無塩素パルプ紙の採用や、大豆油インキ、脱墨が容易なUVインキの使用、PP加工から光沢ニスへの転換、さらには中間材料の削減につながる取組みや産業廃棄物リサイクルも進めることで、より環境に配慮したトータル環境対応印刷システム、BEPS (Bunseikaku ecology printing system)を展開。このBEPSの推進こそ、環境方針の要であることを社員一人ひとりが自覚し、活動している。そのため、環境方針の理解と意識の向上に

ついて、社員だけでなく、取引業者にも徹底されており、より良い印刷物の提供や、省エネ、リサイクルといった取組みだけでなく、地域社会の一員として、環境啓蒙活動を積極的に実施し、地域に貢献している。こうした取組みの結果、2004年には(社)日本印刷産業連合会「印刷産業環境優良工場表彰」の「経済産業省商務政策局長賞」を受賞している。

「環境問題への取組みは我々の使命。『水なし印刷』は技術的にも難しく、コストも割高となるが、長年この印刷方式にこだわり取組んできた。今では我々の取組みに多くの理解や賛同を得ることができ、数多くの印刷を手掛けさせて頂いております。今後も品質と環境配慮の両立を追求し、社会に貢献していきたい」と奥社長は語る。同社は創業以来、「心をつなぐ印刷物」を探究してきた。印刷物の電子化が進んでも、紙や活字を媒体としたコミュニケーションは必要不可欠である。地球環境に配慮しながら、「心をつなぐ印刷物」を提



奥社長と「水なし印刷」であることを示す壁のロゴマーク

供し続け、技術の向上による最高のサービスと品質でお客様の満足を得よう、今後もチャレンジングな企業を目指していく。